

より良い茂原を目指す私たちの政治活動の第一目標は「教育の充実」による茂原市の特区化です。孟母三遷の教えにあるようにいつの時代も親は子供の教育環境の充実を願います。世の中の価値観（ニーズ）によって求められる教育の中身は変化して行きますが将来展望がしっかりした自治体は必ず教育に重点を置きます。

教育の充実は優秀な人材や特異な才能の発掘につながります。そのような人的資源の充実が地域の発展と繁栄に繋がることは疑いもない事実です。

その第一歩として義務教育の充実を図ることと高等教育の環境整備を目指します。

義務教育の充実は教員の充実無くして実現しません。働き方改革の一環として教員の超過勤務時間の問題がクローズアップされ週末の部活動の地域移行が開始されている現状です。

子供たちにとってクラブ活動は人生の喜びを感じられる大切な経験です。それと同じように主要5教科は学問の入り口であり『知る喜び』『学ぶ楽しさ』『知識欲の萌芽』の絶好の機会です。明治政府が義務教育を始めた目的は国民のポテンシャルをあげて先進列強に伍する国家を築くことでした。第2次大戦後はさらに国民一丸となって復興を目指しました。

その結果世界第2位の経済大国になりましたが、大気汚染、水質汚染、地盤沈下、などの公害やそれによる病気が蔓延し、そのしわ寄せは貧しい国民が背負わされました。

その後は反動のように「ゆとり教育」だとか「個性を生かす教育」だとか文部行政の指針に右往左往する教育現場でしたが結果的に児童生徒の学力低下を招いてしまいました。

教員が千葉県の職員であることは承知の上で茂原市独自の教育方針を掲げ市民一丸となって教育充実の実現を目指す事を提言します。

子供たちに人間として生まれてきた喜びを実感できる教育を目指すべきだと思います。

高等教育の環境整備は人材や才能の流出を防ぐとともに独自の文化圏として茂原市の繁栄につながります。その第一歩として茂原市立医科大学の設立を提言します。

公立の長生病院を始め市内の医療機関の医師不足が叫ばれる中、根本的な解決策は外房地区の中核都市を自負する茂原市が官民一体となって市立医科大学の設立を目指し恒久的な医療充実を目指すべきです。過去のヴィジョンなき政治家が778億円もの負債を作ったのですから、同じ額を将来のために投資することは当然の選択だと茂原市民の理解を得られると信じます。

教育と医療の充実は新たな住民の流入を促進し経済の活性化につながります、結果的に税収の増加につながり市政運営の好循環を産むこととなります。

どこを目指すのか市民が理解することで市民のエネルギーが集約されより良い茂原が実現するのではないのでしょうか？